

【視察調査報告書】

海外友好交流都市視察	
参加議員	【議員】13名 福安徹、五間浩、吉本孝良、及川賢一、川村奈緒美、小林秀司、日下部広志、森喜彦、山本貴士、立川寛之、古里幸太郎、浜野正太、高橋剛
日 程	令和5年(2023年)11月8日(水)～11月10日(金)
詳 細	
視 察 先	台湾 高雄市
視 察 内 容	平成18年に台湾・高雄市を含む3都市と友好交流都市協定を締結し、青少年交流や文化交流、スポーツ交流等様々な分野での交流を実施している。市議会においても、これらの海外友好交流都市を訪問し、相手市議会との交流を図るとともに、積極的な市民交流が促進されることを目的に実施。
概 要 (視察訪問場所)	11月8日(水) 衛武営国家芸術文化センター、高雄市議会 11月9日(木) 高雄市立図書館、高雄市政府、高雄日系企業(株KOA)
視察先報告 1日目	<p>衛武営国家芸術文化芸術センター視察報告 山本貴士</p> <p>台湾南部の高雄市鳳山区に位置する衛武営国家芸術文化芸術センターは、敷地面積約70ヘクタールを誇る東アジア最大のコンサートホールとして2018年10月にオープン致しました。</p> <p>もともとは1950年代に中華民国陸軍基地として使用していた場所に建ち、日本統治時代は軍用倉庫として用いられていました。</p> <p>1945年の敗戦後は新兵の訓練所にも用いられていましたが、高速道路と隣接しており、立地的にも国防に適さないと判断され、1979年以降は軍事用での使用を終えることになり、高雄県政府より公園用地としての転用が計画され2003年に正式決定を迎えました。</p> <p>その間、医師や弁護士の団体からこのまま残して公園にしてはどうか、またショッピングセンターにしてはどうか、との様々なアイデアが提案されましたが、「緑は市民に返す」との趣旨で都市公園として方向性が決まり、その後国家ホールとして用いられることが決定しました。</p> <p>都市公園、アートセンター、商業施設の3つの柱で再開発を行うプロジェクトがスタートし、アートセンター10ヘクタール、商業施設10ヘクタール、約50ヘクタールを衛武営都会公園として用いることとし、2010年4月に起工、2018年10月に正式開業致しました。</p> <p>本年令和5年10月にオープン5周年を迎えたこのホールのデザイン選定には、44カ国から44名のデザイナーの応募が有り、最終的にオランダの建築家、フランシーン・フーベン氏に決定致しました。</p> <p>フーベン氏はどの位置にどんな建築物を置くことが最も機能美を發揮するか、</p>

愛されるかの着想を得るために同公園へ 50 回を超える訪問を行い、さまざまなイメージを巡らせていましたが、何度も敷地を訪れる中で、公園の中心に立つ数本のガジュマルの木に大きな影響を受けデザインを絞っていきました。そこには 4 本のガジュマルをデザインに取り入れ、風が通る空間とガジュマルの木の下に人々が集うことをイメージし、4 つのホールを設置しました。私が最初にホールを見たとき、まるで大きな船のようだ、との印象を受けましたが、ホールの外壁建築には台湾の造船会社が携わり、6mm 厚の鉄板を用い、船のイメージを残すために溶接痕をそのまま残す技法採っていました。そして、その外壁面にはゲージがデザインに取り入れられており、それはホールのある海拔を表しており、造船と港町である高雄らしさも取り入れられたホールとして訪れる人々を楽しませています。

4 階建てのホールの内側は 2,200 席を超える国内最大のオペラハウスを有し、4 つのホールの座席数は 6,000 席にのぼり、その数は世界一で、中央草坪と呼ばれる芝生エリアの屋外ホールは 3 万人の収容が可能となっています。音響に関しては、ボックスインボックスの二重構造でホールが設計されており、外からの音を限りなく抑える遮音性に優れ、音響工学面では高度な技術と緻密な計算により音の反射と吸音について工夫がなされています。

ホール内壁は音を反射させるために硬い素材が張られ、吸音部ではアンゴラ山羊の毛をシートに用い不要な反射を抑えられており、イタリア、ラテン系の情熱の赤を表現したシート色になっています。

舞台の高さは 12.6m あり、舞台クレーンは 74 基設置され、どの位置でも欲しい位置に設置物を置くことが可能となっています。

ホールの敷地には柵や塀などがなく、誰でも 24 時間敷地内に立ち入ることができるようになっており、すべての市民に解放された憩いの場にもなっています。

ホールの下の広い空間は気持ちの良い風が通り抜け、たとえコンサートなどを楽しまなくても誰もが一度は訪れたいこの空間は、高雄を訪れた際には足を運ぶことを推奨致します。

視察の様子



高雄市との友好交流協定締結から 17 年目を迎えました。本年は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが 2 類相当から 5 類感染症へ移行された事から、4 年ぶりに八王子まつりも再会。約 85 万人が来場し大いに賑わう中、高雄市からパフォーマンス団が来日され、見事な演技を披露してくださいました。

台湾は親日国としても知られ、前回の表敬訪問では、熱烈歓迎を受けたと聞いていましたが、初日に高雄市議会を表敬訪問させていただいた際、康裕成議長をはじめ大勢の市議会議員、関係者の皆様からのお出迎えに圧倒されました。報道陣まで集まっていた事には大変驚き、熱烈歓迎の姿を全身で感じました。表敬訪問後、すぐにネットニュースでその模様が報道され、数時間後には紙面ニュースまで作成され、お土産として頂いた時には、そのスピードと熱量に驚愕しました。本当に有難い事であると思いました。

歓迎会の席上でも、8 年ぶりの訪問を本当に喜んでくださっている事が伝わる程、手厚い歓迎を受けました。康裕成議長が、訪問団員ひとりひとりと握手を交わして、記念写真を撮ってくださった事に感謝の気持ちでいっぱいです。また、ご出席の高雄市議会議員の皆様もおひとりずつご対応をしてくださいました。記者会見しながらの会場には少々緊張をしましたが、高雄市の皆様の温かな人間性に触れ、実際に現地に足を運び、会って、人や文化に触れて交流をする事の大事さを痛感しました。

高雄市も人口減少のあおりを受け、昨年(2022 年)の選挙から市議会議員定数が 1 名減となり現在 65 名。そのうち約 4 割となる 25 名を女性議員が占めます。台湾では得票に関係なく、一定議席を女性に割り当てるクォーター制が導入されていますが、意見交換の場で実情を尋ねると、現在は女性枠を使わずとも、女性議員は当選をしているとのお話でした。女性議員が力を発揮し、活躍をされている素晴らしい議会である事がわかりました。

また、高雄市は男女共に若い議員が多いとの印象を持ちました。更に、おひとりおひとりにバイタリティーがあり、市政改革を推進する気概とパワーを備えられていると感じました。

議場も見学させていただきましたが、各議員席に倒れそうな程山積みされた書類の数々や、議場へ向かう廊下に飾られていた歴代議長の肖像画など、スケールの大きさに、ただ驚くばかりでした。高雄市議会紹介映像の中で、議場でカジュアルな服装で質疑をする議員の姿があり、庶民的であると同時に、型に捉われないスタイルであると感じ、これも台湾という国が持つ魅力の一つであるとの感想を持ちました。

高雄市議会の皆様から感じ取り、得たものを、本市での議会改革や今後の市政に活かしていけるよう、今回の訪問の意義を留めながら、取り組んでまいりたいと思います。

視察の様子



図書館総館視察報告

高橋 剛

視察先報告 2日目

市を挙げて力を入れて開発を進めているアジアニューベイエリアに、図書館と国際展示ホールがあります。まずはその外観から図書館らしくない雰囲気びっくりしました。

図書館は 2014 年 10 月に完成し、その珍しい工法にも目を引かれました。下からくみ上げていくいつもの作り方ではなく、吊り上げ式で特殊な作り方をされており、それにより柱も少なく広大な空間を作ることができるのには驚きました。室内も大きな樹の下にいるかのような雰囲気です。

個人的に興味をひかれたのは地下 1 階の国際絵本センターであり、全世界から各国の絵本が集まっていて、国による絵本の違いなどが知れて、本当に興味深かったです。中でも縦長の大きな絵本は日本でも販売されているようで、個人的にも欲しいなと思えるものも多くありました。家の中で読むことができるように椅子などではなく雑魚寝できるように設計されるなど、使う人の目線に合わせてデザインされていました。

屋上に上がるとホテルと繋がる壮大なデッキがあり、アジアニューベイエリアを一望できる雰囲気は非常にワクワクしました。ホテルとも繋がっており、市民にとって憩いの場となっており、さらに市外の方にとっても大変有力な観光スポットになっているのを改めて感じました。

館内には大きな螺旋階段が中央にあり、歩いているとどんどん風景が変わっていくデザインがとても面白く、また開放的吹き抜けから光も差し込んでいる館内がとても新しいなと感じました。広々とした設計で多くの方に使ってほしい、街のシンボルになって欲しいという想いが非常に詰まったとても興味深い視察となりました。

視察の様子



高雄市政府表敬訪問

浜野 正太

二日目朝にホテルからバスで高雄市政府への表敬訪問に伺いました。到着後、多くの方にお出迎え頂き応接室にご案内を頂きました。

団長と高雄州市長である陳其邁氏との対談が行われ、市長から予定の時間を超えて多くのお話を頂きました。

パイナップルを八王子市へ 13000 人分送って頂き、八王子市内の学校給食に提供されたことにも触れていただきました。市内の子どもたちにとっても台湾や高雄市を知るきっかけとなったことと感じます。

また、日本の他の都市との交流もある中で八王子市との交流は最も歴史が長いということや、蒋介石氏を含め歴史と現在の情勢などについて言及をいただきました。2006年に友好交流都市となってから17年となり、私達の訪問する今回が、4回目の表敬訪問となりました。

高雄市は4時間ほどで到着する比較的近い都市であるだけでなく、世界有数の港湾都市でもあり、市内に特に多くの日系企業があり、加えて市内にはかつて日本時代に建設されたインフラが多く残っていることをお教え頂きました。

歴史的にも深い絆のある日本と台湾に思いを致しつつ、八王子市と高雄市においても、改めてこれからもより深い交流を続けることを期待いたします。

視察の様子



【視察概要】

令和5年11月9日、海外友好交流都市視察の2日目に、日系企業である高雄 KOA を訪問した。親会社である KOA 株式会社は、長野県上伊那郡に本社を置く一部上場企業である。グループ全体で従業員数約4000名、資本金約60億円の規模である。海外拠点としてアメリカ、ドイツ、中国をはじめアセアン地域に至るまで複数設けており、グローバルビジネスを展開している。事業の中心は電子回路部品の設計・製造であり、特に抵抗器が主要な製品となっており、用途は一般的な電子機器用から航空宇宙用まで幅広く対応している。



その中で KOA 高雄は、1986年8月に創業、3916 m²の敷地に工場を建設した。創業当時は、6～7名の日本人が各部門の責任者を務め現地スタッフを育成してきた。現在では現地スタッフの技術力が向上し、126名の従業員のうち日本人は2名である。高雄 KOA は製造を主に手掛け、台北に販売会社を有している。日本で抵抗器の着膜、組立、初抵抗分類の行程まで行い、その後工程であるテーピング加工等を台湾で行い集荷するという流れとなっている。グループ全体の売上高に占める KOA 高雄の割合は5%程度とのことであった。高雄 KOA で製造している抵抗器は、旧型のものが中心であるが、今後は角形チップ固定抵抗器が主流になっていくと考えており、こうした新型の抵抗器製造に取り組んでいくとのことであった。

【所感】

高雄 KOA で製造している抵抗器は、電気を使うあらゆる製品に必要な部品である。これまでは家電メーカーが主な取引先であったとのことだが、昨今、自動車のEV化の流れの中で自動車メーカーが有力な取引先となりつつあり、ビジネスチャンスの広がりが期待できる。同社が掲げる2030ビジョンでは「カーボンニュートラル社会の実現に向けて、モビリティの電動化や、クリーンエネルギーを使った社会インフラの投資が一気に加速しています。また少子高齢化やデジタル化の進展により産業機器市場が拡大するなど、KOAにとって大きな事業機会が到来しております。」と将来展望を述べている。電子機器に必要な不可欠な部品である抵抗器一筋で80年にわたり培ってきた技術とノウハウで同社、そして高雄 KOA のさらなる発展を期待したい。

視察の様子



台湾・高雄市視察を終えて

福安 徹

平成 18 年に高雄市と海外友好交流都市協定を締結してから、今回で 3 回目の高雄市訪問となりました。

高雄市は台湾有数の大都市で、本市の 57 万人と比べて 270 万人以上の人口数であり、面積は 2,951 km² で八王子市の 15 倍以上の広さを誇り、すべての面で規模が違いますが、八王子の将来のためにも、発展を続けるこの街から一つでも参考にしたいと思い、今回も視察に臨みました。

初日に行われた高雄市議会への表敬訪問では、今回も康議長、曾副議長をはじめ関係者の方々の熱烈な歓迎を受けました。高雄市議会の映像を見せていただき、ほとんどの議員がスーツではなくウィンドブレーカータイプの上着を着ており、質問時は 1 人しか議員がいないなど、八王子市議会との違いを感じました。次に、康議長の挨拶に続き八王子市議会視察訪問団団長としてお礼を含めた挨拶をした後に、高雄市議会議員の出席者に続いて八王子市議会議員訪問団の紹介をしました。場所を議場に移動して議会活動の事など、個々に質問をして説明を受けているうちにお互いの仲が深まり、高雄市議会と八王子市議会とで笑顔の記念写真を撮るなど、友好交流関係の絆がますます深まっていることを感じたところです。

視察の二日目は、市立図書館総館や高雄市政府を訪問しました。図書館は前回も見学をしましたが、地下 1 階、地上 8 階建で中央にらせん状の階段を設置した大規模な図書館であり、各フロアが明るく広々と感じる近代的な構造が特徴的で、これが図書館なのかと思うほどの建物です。児童書のスペースには多くの日本の本も置いてあり、幼少期から国際的な文化に触れる機会が設けられています。八王子に関する本も配架されており、とてもうれしく感じました。

高雄市政府を表敬訪問の際には、挨拶の後で陳市長との意見交換会において、熱く思いの込めたお言葉をたくさんいただきました。親日家である高雄市との更なる交流を深め、双方のこれからの発展のためにこの交流を進めていくべきだと改めて感じた次第です。

最後に、今回の視察でお世話になった方々に感謝を申し上げ、視察報告とさせていただきます。

視察団員 所感等

(意見・課題・
本市への反映
など)

外友好交流都市・台湾国高雄市を訪問して

五間 浩

八王子市では、平成18年の市制施行90周年を記念して、幅広い市民交流を推進するために、中国・泰安市、台湾・高雄市、韓国・始興市の3市と「海外友好交流都市」の協定を締結しています。

まず、この度、八王子市議会海外友好交流都市視察団の一員として、台湾・高雄市を訪問する機会を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。

台湾・高雄市には、平成21年の同視察団の一員として訪問させて頂いており、私にとっては14年ぶり2回目となる訪問の機会となりました。

視察初日の11月8日は、高雄市議会を表敬訪問して、康裕成議長はじめ多くの議員の皆様と懇談。翌11月9日には、高雄市政府を表敬訪問して、陳其邁市長はじめ多くの市政府幹部の皆様と懇談させて頂くなど、いずれも熱烈的な歓迎を頂く中で、積極的な意見交換が行われ、17年間に及ぶ友好交流事業の蓄積を実感する有意義なひと時を過ごすことができました。

また、11月8日に衛武营国家芸術文化センター、11月9日には高雄市立図書館総館をそれぞれ訪問。これらは、前回の高雄市視察では開設されていなかった完成後間もない新しい施設で、そのスケールの大きさに圧倒されるとともに、高雄市の飛躍的なご発展の姿に大慶の念を禁じ得ないものでした。

今後とも、台湾・高雄市と八王子市における更なる市民交流、教育・文化交流、経済交流などの相互間交流が進展されることを願ってやみません。

結びに、高雄市でお世話になりました関係各位の皆様にご心からの敬意と感謝の意を表させていただきますとともに、福安団長はじめ視察団の各議員並びに随行を頂きました市職員の皆様にご厚く御礼を申し上げまして、この度の視察についての感想とさせていただきます。

台湾、高雄市を訪問して

吉本 孝良

今回友好都市として、台湾高雄市を訪問しました。私にとって友好都市は3回目であり、議員一期目では中国泰安市、二期目の時は韓国始興市を訪問させて頂き、三期目の際には新型コロナウイルスの流行によって延期とされましたが、入出国が緩和されたことによって、四年ぶりの友好都市訪問となりました。

今回の訪問に対しては、台湾は暑いと聞いていました。日本は気温が下がり、冬の気候でありましたが、台湾に到着するなり、30度を超す真夏の気候に戸惑いました。

台湾台北市に到着後高雄市へと移動し、高雄市議会を表敬訪問させて頂きました。この訪問に対して手厚い歓迎をいただきました。高雄市議会における女性議員の多さにびっくりすると共に、事務局や関係する周囲においても、女性

の活躍が目立ちました。高雄市議会は議員の枠がしっかり決まっており、4人に一人が女性であり、原住民の枠も保護されているなど、さまざまな意見を聞きやすくする仕組みに沿って作られていると感じました。この訪問後翌日には、現地新聞にこの時の記事が紹介される等地域としても歓迎して頂きました。

また、訪問先として、高雄市立図書館を訪れました。八王子市から寄贈した本がコーナーとして貸出されていたことに感激したほか、図書館の作り方においては、デザイナーによって、古い本を活用したオブジェを仕切りのように使い、大変雰囲気の良い空間を演出している他、本の貸し出し方にも工夫がされており、一見、本とは関係のないものが展示されて置いてあるが、実際には本に関係するものを展示してあるなど、様々な工夫がされており、八王子駅南口集いの拠点整備内に設置予定である図書スペースに、このような図書スペースが出来ると読書の環境も変わるのだろうと感じたところです。

高雄市政府表敬訪問をした際には、陳其邁市長から歓迎のスピーチを頂きました。本当に日本の事を学び、八王子市についてももしっかり勉強されていたことに対して敬意を表するしだいです。

日系企業訪問では、「高雄興亜股份有限公司」様を見学し、大変小さな部品を作られていましたが、その品質管理の徹底に感服したほか、従業員さんの年齢が若いことにも驚きました。

夜食後、自由時間に複数名の議員と瑞豊夜市を散策してみました。この夜市は観光客向けの夜市ではなく、現地の方のお台所として利用されている夜市で、熱気があり、皆さんが楽しそうに夜食を取っていました。

今回台湾に訪問した時は、総統選挙、立法院選挙を控え高雄市内においても大きなポスターがかなり貼ってあり、中国との問題も大きく影響していると感じました。

今回の訪問では、海外友好都市で見聞を広めることは、今後のまちづくりに大切な事であると感じました。

高雄市視察を終えて

及川 賢一

個人としては二度目の高雄市訪問、議員団としては初となる高雄市への訪問でした。

今回の視察では、高雄市における様々な取り組みについて見学することができました。

初日に見学した衛武营国家芸術文化センターは、オペラハウス、コンサートホール、屋内外の舞台劇場などで構成される台湾のみならず、世界でも最大級の文化ホールであり、オランダのメカノーがコンペを勝ち取り、設計を手掛けています。

貿易都市である高雄の造船技術を活かした外壁と、敷地内に生育するガジュマ

ルの木をモチーフにして作られたデザインは、周辺環境にうまく溶け込んでおり、施設の内外の境界の曖昧さが印象的でした。

高雄市立図書館は、空間の作りや仕掛けがとても優れているとともに、児童書の充実さや、子ども、親子向けの読書スペースの広さ、絵本の多言語対応など、様々な面で子育て世帯への配慮を感じることができました。

とくに本の展示手法が素晴らしく、デザインや造形を工夫した什器や POP、パネルなどは民間の書店以上に凝った作りとなっており、それらは八王子市が進めている八王子駅南口集いの拠点の図書館整備に向けて、大いに参考になりました。

日本企業の高雄興亜股有限公司の視察では、フォックスコンに代表される台湾の OEM 企業と日本企業との関係性や部材調達における現地法人の動向などについて話を聞くことができました。

日本のメーカーをはじめ世界中の名立たる企業が OEM での製造比率を高めていく現代にあっては、日本のメーカーの商品だからといって日本企業から部材を調達するという時代ではなく、世界のメーカーとの競合の中で部材を売り込んでいくためには品質、コスト、物流、営業など、各分野でグローバルに展開していくことの必要性を感じました。

とくに円安が加速する昨今では、海外展開の視点を欠かすことができないため、国外の動向も注視しながら、八王子市内の中小企業支援策を考えていければと思います。

また今回の視察では、表敬訪問などの機会を通じて、高雄市議会や高雄市政府の方々と多くの懇談の場を持つことができました。

これまでも児童、学生や市民、民間企業の交流など、様々な点で高雄市との交流を深めている両市ですが、高雄市議や行政官の方々からは、今後さらに友好と交流を深めていきたいという数々のお言葉を頂くことができました。

それらの思いと提案を受け、行政はもちろん、一市民としても様々な機会を通じて高雄市との親睦を深めていきたいという思いを持つとともに、両市の市民、事業者にとっても喜ばれる交流と、相乗効果をもたらすための施策を考えていきたいと思います。

短い期間ではありましたが、視察を通じて両市の交流と、政策検討に向けた有意義な機会を得ることができました。

台湾高雄市視察を終えて

川村奈緒美

以前台北の友人の結婚式で訪れて以来 2 度目の台湾でした。空港に降り立つとその頃を思い出し懐かしく思いました。想像以上に気温が高く、服装選びを間違えた感がありましたが、視察のスタートにワクワクしておりました。

台北駅構内を歩いてみて感じたことは、広々とした駅構内にいわゆる路上生活者の方々が多く見受けられたことでした。

台湾の経済は半導体や情報技術の分野での強みがあり、経済成長の強みとなっておりますが、一部の世帯では経済的な課題が存在し、社会的な公正と福祉を向上させる努力をしているとも聞いたことを思い出しました。選挙のポスターなども日本のそれとは大きさがまるで違い、改めて驚きました。バイクの台数の多さや軽装での運転手の姿も特徴的です。

その後新幹線・バスと乗り継ぎ、高雄市議会に到着。先輩方から伺っていたとおり大変な歓迎をしていただきました。

議員の一定数を女性に割り当てるクォーター制度を導入しており、多くの女性、特に若い女性が安心して政治に参加できる環境が整っていることが伝わってまいりました。

その女性議員の方々はクォーター制度の枠で最初は当選されたとしても、次からはその枠を超えた得票数を目指し、実力での当選に向け切磋琢磨されているそうです。さらに高雄市議会には少数派民族枠もあり、日本との違いを感じました。

歓迎の食事会ではこの上ないおもてなしをしていただき、このホスピタリティは大変素晴らしく、また私は今回の視察団の中で女性議員は一人でしたので、気を遣っていただき、何も困ることなく過ごさせていただきました。八王子市との交流は以前より活発に行われており、八王子まつりでの演舞の披露もいつも楽しみにしております。

そんな高雄市の皆様印象は「笑顔」です。笑顔での会話はできそうでできないものです。

目線を合わせての会話は弾み、翌日の市政府表敬訪問でも大変スムーズに過ごさせていただきました。昼食時に日本と台湾の国旗のバッジを市政府の皆さんがつけておられ、素敵ですね！と話したところ、帰りには私たちの分をご用意いただき大変感動いたしました。

所々でのさりげない心配りにとても学ばせていただきました。

視察先の日系企業KOA(株)は、長野の企業であり、特に自動車関連の電子部品を展開しており、抵抗器のグローバルシェアが世界一と「信州発のグローバル企業KOA」としてものづくりを提供しています。日本からの出向社員の方の説明で高雄市での暮らしなども伺えました。実際に工場内も見学し、日本の技術がここでもしっかり生かされていることを誇りに思いました。

高雄市立図書館は想像を超える規模の図書館であり、その建物の素晴らしさと勉強熱心な高雄市民が生活の一部として使われていることが伝わってまいりました。絵本の多さや八王子市関連の書物のコーナーがあることも嬉しく思いました。

あっという間の3日間でしたが、今回の視察に関わって下さった多くの皆様に心から感謝申し上げます。視察報告とさせていただきます。

令和5年11月8日から11月10日日程で海外友好都市を視察してまいりました。

コロナ禍による影響により中止となっていた海外友好都市視察も本年再開となりました。

議員となり初めての海外視察、渡航前には前市長の黒須隆一氏（NPO法人八王子台湾友好交流協会）より台湾について事前の勉強会を開いていただき、準備をして臨むことができました。

台北松山空港より新幹線をへて高雄市へ移動、大都市間の移動については非常にスムーズに快適実施することができました。

台湾における都市基盤整備状況をみる良い機会となりました。

高雄市では、初日は衛武国家芸術センターの見学、市議会表敬訪問、2日目は高雄市図書館、高雄市政府表敬訪問、進出している日系企業を見学しました。見学した施設は国レベルでの施設整備されたものあり、その時々々の為政者の意向が色濃く反映されていました。

従い選挙への関心は高く、年明けには総裁選挙、統一選挙が予定されており市街地の各地には候補者のポスター掲示がなされていた。

一方大都市の市街地においても、生活に直結するインフラの整備、歩道車道の整備状況、給排水設備などは、日本の整備状況とは異なる水準と感じた。

郊外へと移動したときの「まちの風景」は更に違いを感じました。

新幹線・空港・港湾・シンボル施設など国家規模での施設整備、市民生活に直結する都市基盤整備の違いはありましたが、市民一人一人のバイタリティーを感じ国家として成長過程にあると感じました。

高雄市視察を終えて

日下部 広志

台湾・高雄市とは市政施行90周年の2006年に友好交流協定を締結し、文化・芸術・スポーツ・学校教育など、これまで様々な面で交流を深めてきました。

コロナ禍で3年間現地を直接訪問しての交流が難しい状況ではありましたが、2023年度は再開することになり、八王子市議会より代表の1人として訪問させて頂くことになりました。

高雄市は人口約260万人。首都台北に次ぐ第2の都市であり、また台湾最大の港町でもあります。

羽田空港から台北松山空港までは、約3時間30分。日本との時差は1時間あります。

今回は台北から台湾高速鉄道を利用し、高雄市まで向かいました。台北と高雄を結ぶこの車両は、海外で日本の新幹線技術を採用した、初めての車両と

ということで当時は非常に注目されました。次世代の高速鉄道も日本製が採用されたと先日報道がありましたが、日中友好の象徴として今でも重要なインフラとなっています。

高雄市議会への表敬訪問では、康裕成議長をはじめ多くの議員の方に歓迎して頂き、友好都市として非常に良好な関係であることを改めて実感しました。高雄市の陳其邁市長との懇談会では、八王子市と高雄市とのさらなる友好関係の発展、今後の取り組みについてお話をさせて頂きました。

交流を通して印象に残っているのは、多くの女性議員が活躍されていること。市議会議員をはじめ行政のリーダーなど、性別に関係なくあらゆる分野でのジェンダー平等が浸透していることを実感しました。

また、台湾では国民の政治への関心も非常に高く投票率は平均 75%前後だそうです。日本では政治不信、若者の政治への無関心、投票率の低下などが大きな問題となっていますが、台湾での取り組みは学ぶべきところが沢山あるのではないかと思います。本市でも参考にしていきたいと考えています。

今後も、友好都市として互いに発展し、協力しあえる関係をさらに深めていけるよう尽力してまいります。

最後に今回の視察でお世話になった全ての皆様に感謝申し上げ、視察報告とさせて頂きます。大変にありがとうございました。

海外友好都市・高雄市を訪問して

森 喜彦

本市は 2006 年に台湾・高雄市との海外友好交流都市としての交流を開始しました。前回は 2015 年、コロナ禍による中断を経て 8 年ぶり 4 度目の視察団派遣となります。私自身は海外視察自体が初めてでありましたが、康裕成議長、陳其邁高雄市長はじめ、高雄市議会議員や市職員の皆様に温かく迎え入れていただき、心より感謝申し上げます。

訪台で最も印象に残ったのは、都市部における情報や技術、サービスなどのグローバル化です。駅に掲げられた広告には日本企業の家電製品やゲームや携帯電話アプリ等のデジタルコンテンツやそれらを通じたサービスがあふれており、新幹線や地下鉄の電光掲示やデジタルサイネージ、コンビニエンスストアに並ぶ商品、ショッピングモールに出店している衣類や装飾品のブランド、高雄市内のレンタサイクルなど、日本で馴染みのあるものが台湾でも数多く見受けられました。

高雄市は高雄港により発展した海洋都市であり、貿易と造船が盛んで、造船の町というイメージは東アジア最大級のコンサートホールを擁する衛武营芸術文化センターにも踏襲されています。高雄港は高雄多功能経済貿易園区として観光商業文化交流などの機能強化が図られており、台湾で 2 番目に高い高雄 85 ビル、海と直結した特性を活かしボートの展示などできる高雄展覽館（国際コンベンションホール）、高雄市立図書館、アジアベイエリア 5G AIoT イノベーションパークなどの整備が進められています。高雄市に仕事で居住滞在する外国人市民も多ことから、高雄市立図書館には外国語の書籍や絵本なども豊富に蔵書しており、日

本語の本や日本に関する本にも非常に広いスペースが割かれていました。

市民 272 万人の政治を司る高雄市議会は 15 の選挙区から 65 名の議員が選出されていますが、女性や先住民出身者などの選出数を保障する制度があるという事でした。街中では、ビルの看板やバスやタクシーの車体など、いたるところに政治家や政党の広告が掲出されており、政治（活動）に対する市民の関心が高く自由、活発な印象を受けました。八王子市も絹売買・貿易の中継地点として発展した歴史を持つ町ですが、多様性を強みにイノベーションへとつなげていく高雄市の気風に改めて学びたいと思いました。高雄市からは八王子まつりなどの機会をとらえて高雄市議会や舞踊団が八王子市へ来られています。国際交流親善の積み重ねが民主的で平和な社会の実現につながっていくのだと思います。今回の視察交流事業に関係された皆様に感謝しますとともに、交流の深化を通じて両市が益々発展していくことを心より祈念申し上げます。

感動、歓迎、関心の海外友好交流都市視察

山本貴士

11 月 8 日の早朝、CI223 便にて羽田空港を福安団長、五間副団長のもと、総勢 16 名で出発致しました。

台湾北部、台北に到着後、すぐに鉄道のターミナルに移動し、台湾高速鉄道にて台湾南部、高雄に向かいました。

台湾高速鉄道は日本の N700 系新幹線がそのまま用いられており、安全快適な移動手段として人々から愛されていました。

私にとりまして、初めての台湾になりますが、沖縄と、日本の昭和を感じるようなどこか懐かしい空気を感じながらの視察の開始となりました。

高雄に到着後、最初に衛武营国家芸術文化センターを視察致しました。

約 70 ヘクタールの公園に 4 本のガジュマルの木をモチーフにデザインされた当施設は、全体で約 6,000 席を擁する世界最大の観劇ホールであり、造船技術を用いた外壁からは大きな船を感じさせる雄大さと、100 万工程を要した複雑さが有り、建物そのものが巨大な芸術作品として存在していました。

元々は軍事基地があった場所を、緑は市民に返すとの趣旨で公園を作り文化、芸術の拠点としてこのホールが建てられました。

次に高雄市議会へ表敬訪問を行い、康裕成高雄市議会議長はじめ高雄市議会の方々にご挨拶を致しました。

議事堂正面には八王市議会を歓迎する横断幕が掲げられており、歓迎ムードが漂うなか、共々に挨拶を交わし議場の案内と共に記念撮影が行われました。

同時に、共に友好交流都市の絆を固めるとともに、それぞれの市の発展を誓う貴重な場となりました。

翌朝に高雄市立図書館の視察では、森をモチーフにしたデザインに、温かみと親しみを感じ、八王子市においても工夫を取り入れられないかといったヒントを得る高い関心を持った施設でした。

2014年にオープンした世界最優秀建築証を受賞したこの図書館は、品良くデザインされた館内に様々な工夫が取り入れられており、自然光を活かした採光の手法や、人にとって心地よい空調を目指した上部空調ではなく床下空調で快適さとメンテナンス性の向上が図られ、100万冊の蔵書を収容する巨大な施設となっており、本を読むだけでなく、市民の憩いの場にもなっていました。

また、吊り下げ工法により建築されたこの建物は耐震性にも優れており、隣接したホテルと共に安全で快適な空間が確立されています。

この工法の成果は耐震性だけでなく、館内に余計な柱が少ないため、見通しの良い広い空間が確保されており、好きな場所でゆったりと、時には寝転びながら読書ができる16,000席を有する施設となっています。

その後、高雄市政府を全員揃って表敬訪問し、高雄市長の比類ない市政運営の手腕と積極的な発展が伺え、280万人を擁する高雄市の力強さを学ぶ機会となり、八王子市においても参考にしたくなる大きなヒントを得る訪問となりました。

午後は日本企業を訪問し、支社長、工場長2名の日本人の方に案内頂き精密部品工場の視察を行いました。

高いスキルを持つ工員が、日本の精密な製品を発信するために懸命に作業をしていました。

その指導に当たる日本人の知識もさることながら、勤勉な姿勢で作業に取り組む工員の方々の姿が印象的でした。

世界に発信される日本の製品はこうした努力の中で生まれることが伺え、感動のひとつに尽きる視察となりました。

また、現地通訳の方がタピオカミルクティーをお好きとのこと、その選び方や台湾名物の美味しいパイナップルケーキの選び方なども併せて伝授して頂き、現地ならではの知識を得ることも出来ました。

最終日は午前中に高速鉄道で台北に向かい、台湾総統府を視察致しました。

現地の案内の方が総統府の建物は日本から送られたレンガを用いて作られているが、日本の高い技術と高い製品のおかげで、100年前の建築物であるにもかかわらず地震にも耐え、100年経っても色あせない美しさが保たれていると賞賛されていたことが印象に残りました。

素晴らしいガイドと通訳、そして細やかな配慮で動いてくださった市職員の方々、団長、副団長はじめご一緒させて頂きました議員の皆さまに心から感謝する海外友好交流都市視察となりました。

海外友好交流都市（台湾 高雄市）を訪問して

立川寛之

本市は、平成18年に市制施行90周年を機に、台湾高雄市ほか2都市と海外友好交流都市の協定を締結した。以来、高雄市とは行政や議会、また市民によるスポーツ交流、経済交流などが行われてきた。今回、11月8日から10日の

3日間、私にとって初めてとなる高雄市訪問の機会を頂いた。

初日は台北松山空港に降り立ち、台南の高雄市へと移動。衛武营国家芸術文化センターの訪問、高雄市議会の表敬訪問を行った。まず、台北駅から新幹線により高雄市内へと移動するのだが、台北駅に多くの日本企業の店舗が出店していることに驚いた。コンビニエンスストアは、ファミリーマートとセブンイレブンが数店舗ずつ出店しており、しのぎを削っている。他にモスバーガーやミスタードーナツなどの出店も見られた。また、駅構内の広告はパナソニックをはじめ、日本企業の製品広告が多く、こうしたことから日本と台湾の文化・経済の結びつきの深さが見て取れた。

高雄市は台湾最大の面積(2951 km²)を誇り、本市の約16倍の面積を有する。また人口は272万人であり台湾では第3位の人口規模である。年間を通じて平均気温が18度程度で、現地ガイドの話によるとたまに寒波により10度を下回ることもあるそうだが、基本的には温暖な気候である。体感的には湿度が高く感じた。また、国際貿易の高雄港や高雄国際空港を有し、台北に次ぐ経済都市としての側面を持つ。こうした背景により、高雄市では石油、石炭製品製造、基礎金属製造、電子部品製造など重化学工業や金属加工業が多く立地し、台湾随一の産業都市である。そのため、現地ガイド曰く、大気汚染が課題とのことで確かに常に霞がかかったような状況であった。

衛武营国家芸術文化センターは、まずその規模に圧倒される。周辺は広大な公園となっており、その一角に敷地面積10ha衛武营国家芸術文化センターが建っている。オペラを鑑賞できる2000席のホールのほか、劇場などで構成されるこの施設は台湾の文化の拠点となっている。曲線美による独特な建築は、コンペによりオランダ人の建築家、フランシーン・フーベン氏が手掛けたもの。高雄市は造船業も盛んであり、本施設を建設するにあたり曲線を表現するための鋼板の加工には造船技術が用いられたとのことである。

高雄市議会の表敬訪問では、議長以下多くの高雄市議会議員の皆様のお出迎えにより、交流を図った。まず、印象に残ったことは、台湾市議会の議員の構成である。現地の少数民族の枠を設け、マイノリティの声を行政に届けることを担保していることは素晴らしいと感じた。また、全体的に年齢も若く、かつ女性議員が多いことも印象に残った点である。高雄市をバスで移動していると、ビルの壁面やバス停のパネルなどに大体的に掲載している議員の広告を目にする。選挙期間でないにも関わらずこのようなアピール合戦をしている点は、我が国の選挙活動ルールとの違いを実感した。

2日目は、高雄市立図書館の見学、高雄市政府の表敬訪問、及び日経企業の訪問を行った。高雄市立図書館は、地下1階、地上8階建ての建物で延床面積約37000 m²を誇る大規模な図書館である。木質調の内装と開放感のある空間、随所に配置されている自習スペースなど工夫が凝らされている。絵本コーナーは、日本語の絵本をはじめ海外の絵本まで取り揃えている。また、本市との友好交流都市であることから、八王子市史をはじめ八王子関連本専用の書架を設けるなど、文化交流に資する取組は素晴らしいと感じた。

その後の高雄市政府の表敬訪問では、陳市長以下、副市長や秘書長など錚々たるメンバーとの交流を行った。観光局の方ともお話をしたが、やはり日本との間では観光面での交流に対する期待の大きさも感じられた。コロナ禍前のデータであるが、日本人の訪台観光客は約 217 万人、一方で台湾からの訪日観光客は約 490 万人となっており、日台双方の観光交流は大きなインパクトを持っていることを考えると大きな期待を寄せるのも頷ける。

日系企業訪問では、KOA 高雄を訪問した。KOA 株式会社は、長野県上伊那郡に本社を置く、一部上場企業である。グループ全体で 4000 名の従業員を抱え、資本金約 60 億円の規模である。事業の中心は電子回路部品の設計・製造であり、特に抵抗器が主要な製品となっている。KOA 高雄は、従業員数 126 名、うち日本人は 2 名である。日本で着膜、組立、初抵抗分類まで行い、その後台湾でテーピング加工等を行い集荷するという流れとなっている。グループ全体の売上高に占める KOA 高雄の割合は 5 %程度とのことであった。工業地帯の一角にあり、周囲は大規模な工場に囲まれていた。台湾は半導体や自転車の「世界の工場」となっているが、そうした経済的な勢いを感じる視察であった。

最終日は、台北市にある中正紀念堂を見学する機会を得た。同施設は蒋介石没後に哀悼の意を捧げることを目的として建設された施設である。日本統治下の軍用地 25ha を活用し、敷地内には紀念堂以外に、コンサートホールやオペラホールが配置されている。いずれの建物もその規模で見ると圧倒する。当該施設は日本のアーティストによるコンサートが開催されたこともあり、歴史的な建造物であると同時に文化発信の拠点になっている点も興味深い。

本市と海外友好都市の協定を締結している都市は高雄市を含めて 3 都市あるが、特にこの高雄市とは文化、スポーツ、経済分野など頻りに交流を持っている都市である。令和 5 年度はコロナ禍により休止されていた読書感想画・感想文コンクール上位入賞者による高雄市訪問も再開することとなり、市民レベルでの交流がより深化することが期待される。個人的には台湾は TSMC をはじめ先端技術を有する企業が多いことから、製造業のまちである本市との企業間交流を活発化させ、両市の活性化に資する関係づくりに発展していければ良いのではないかと感じた。

海外友好交流都市「台湾・高雄市」を訪問して

古里幸太郎

まずはじめに、本年 5 月より市議会議員 1 年目がスタートしたばかりの中で、海外友好都市交流という貴重な体験をさせていただいた事に心より御礼を申し上げます。

私自身、初めての台湾でしたが、出発前に黒須元市長からお話を伺う機会をいただき、事前に日本と台湾の歴史や台湾の事を教えていただいた事で、台湾をぐっと身近に感じる事ができました。

11月でも夏のように暑いと聞いていましたが、30度超えの気温には驚きました。ガイドのローさんが、有益な情報を滑稽に話してくださり、バスの移動も楽しい時間となりました。

台北駅、左営駅の大きさにも感嘆しました。建築物や構造物に興味があるため、ついつい撮る写真が多くなってしまいました。

最初に衛武营国家芸術文化センターを見学。日本陸軍倉庫跡を引き取り、70ヘクタールの広さを活かし30年間新兵訓練所として使用した後、高速道路の建設など環境の変化に伴い、台湾南部開発の国家プロジェクトとして公園化。緑を市民に返すという発想に感銘を受けました。その公園の中に設立された4つのホールは1つの屋根で繋がり、世界最大規模の劇場を成し、台湾の人々がガジュマルの木の下で涼をとる事から着想を得た斬新かつ荘厳なデザインに圧倒されました。壁の素材ひとつとってもこだわり抜かれた造りに魅了されました。大きなスケールの中にも、国民が親しみやすいようにと扉を無くした造りにするなど、温かみのある国民性を感じる施設でした。

高雄市議会と翌日の高雄市政府の表敬訪問では熱烈歓迎を受け、歴史を越えた真心のおもてなしに胸が熱くなりました。

日本人設計士と台湾の共同で設計された高雄市立図書館は、地上8階、地下1階建て。単に本を借りたり読書をするだけでなく、レストランやカフェも併設され、屋上にガーデニングも施されていました。各階ごとに特色があり、各所に直射日光を遮断する緑も植えられ省エネにも貢献。環境に配慮された造りとなっていたのが印象に残りました。八王子から寄贈された書物もありました。建設の仕方にも工夫があり、学ぶべき事が多い図書館でした。

街に目を向けるとバイク専用道路があるほどバイクに乗る人が多く、50cc以下のバイクは無免許との事で、小学生も乗っているとの話には驚きました。他に、信号が変わるまでの時間が信号機に表示されていた事が興味深く、20年程前に、高齢者を想って女子高生により発案されたものと知り、市民の声が反映されている事に感動をしました。

日系企業の高雄興亜股份有限公司を訪問し、日本の技術と台湾の方々との融合により40年近く奮闘をされている姿を拝見しました。

夜市も活気がありました。東洋随一の西洋建築と謳われた総統府では、柱に使われている100年前の日本のレンガや、建物を上空から見ると「日」の字型に見える事、中庭が梅の花の形をしている事などを教えてもらいました。日本と台湾の長い歴史と深い繋がりを感じた建物でした。最後に見学をした中正紀念堂では、巨大な蒋介石の銅像や傍で守る微動だにしない毅然とした衛兵の姿から、誇り高さ台湾の威厳を全身で感じました。

交流と一言で言っても、実際に現地に足を運び、その地の文化と人に触れてはじめて相手を知り、互いを知り合っ、心と心が通う事を痛感しました。日本と台湾の歴史を胸に、絢爛たる人間文化の花を開きゆかせるため、この度の海外友好都市交流で学んだ事を活かしていきたいと決意しました。

高雄市を訪問して

浜野 正太

11月8日、羽田空港から飛行機で数時間、初めて台湾に降りて感じたのは気温の違いでした。東京は10度ほどでしたが、台北は30度近くあり、近隣とはいえ暮らし方の違いがあるのだろうと実感しました。

道路には日本では想像ができないくらい多くのバイクがひしめいており、街の活気を感じるどころでした。

言語の壁があるということを実感しましたが、日本語の知見をお持ちの方が多く、懇親の場にあっては、カタコトの現地語と英語と、日本語を通じて、あるいは一緒に食事をするを通じて、コミュニケーションをいただけたことを大変光栄に感じました。市議会の方、市政府の多くの方に歓待を頂いたことを嬉しく思いました。

高速鉄道にて台北から高雄へ向かう際には、多くの開発地があり、今まさに成長している勢いを街並みから感じる事ができました。日本においては既にある程度のインフラが整っていますが、私の見たことがない発展の時代の姿を想像しておりました。

日程終了後、夜市にも伺ってみました。狭い空間に数多のお店がひしめいており、強烈な印象を受けました。日本では規制なども踏まえると実現するかどうかは分かりませんが、独特の力強い街並み、と感じました。

兵役があること、中華人民共和国との関係など、非常にセンシティブな話題については、現地を見た上で考えてみると、日々日本においても台湾の話題が出ていますが、臨場感をより強く感じさせていただきました。ご近所でもある台湾、そして高雄市のことは他人事ではないと感じるとともに、パイナップルや電子部品をはじめとした日系企業が多くあることなど、様々な角度から交流があることを知る機会をいただくとともに、今後もより親近感を持って台湾、高雄市を知ること、学ぶことの大切さを認識いたしました。

最後に、視察にあたり準備に奔走していただいた方々、高雄市にて対応して下さった関係者の皆様に心から感謝申し上げます、ご報告といたします。

海外友好交流都市・高雄市を訪問して

高橋 剛

令和5年に初めて当選してから、最初の友好交流視察となりました。高雄市への表敬訪問の際に、横断幕や多くの職員に盛大に迎えられて本当に驚きました。前黒須市長の代から非常に仲良くしている友好都市であり、その関係性の深さが伺えました。久しぶりの訪問で私自身は初めて何うにも関わらず、本当に手厚く歓迎をいただき個人的にも大変感動いたしました。通訳の方もいましたが、言葉が通じずともこちらを楽しませたいんだという想いがしっかりと伝わってきました。

高雄市を歩いていると、八王子市とは政治と生活のつながり度合が違うことに驚かされます。アイドルのような写真がビルに大きく描かれており、芸能人なのかと思っていたら政治家のポスターだった、など、もっとフランクにカジュアルに政治が市民に近い存在になっているのを感じました。その投票率の高さ、そして選挙の盛り上がり、非常に高い市民の政治参加率。日本が今課題としている部分に対して正反対ともとれるような状況は非常に興味深かったです。

多くの議員さんや職員の皆様と交流することができ、日本や八王子との違いを沢山聞かせていただいたり、私自身も勉強させていただき、持ち帰らせていただいたアイデアも数多くありました。斬新なデザインの図書館や、衛武营国家芸術文化センターを視察するなど、八王子市として真似はしてみたい発想を数多く見学することができ、大変勉強になりました。日系企業の見学なども、国境を越えての交流に対して非常に学ばせていただきました。

日本よりも進んでいるなと思う部分もあれば、道路などの整備具合の違いも体感することが出来ました。市や議会だけでなく交流がさらに広がり、高雄市と八王子の関係が今後もますます深まることを期待しています。